

あしや わがまち トピックス



園芸講習会の様子

総合公園 5月・6月の園芸講習会

問い合わせ 総合公園(☎38-2103/☎25-2026/✉ashiyasogo@mizuno.co.jp)

- ①ハーブ染め・スカーフ作り
■日時 5月29日(日)午前10時30分～正午 ■費用 2,500円
- ②観葉植物の育て方と
室内インテリア作り
■日時 6月5日(日)午前10時30分～正午 ■費用 2,500円
- ③アジサイを育てよう！
毎年さかせよう！
■日時 6月15日(水)午後1時30分～3時 ■費用 500円
- ④プリザーブドグリーンのコケ球作り
■日時 6月19日(日)午前10時30分～正午 ■費用 2,000円
- ⑤日陰を明るくカラーリーフの寄せ植え
■日時 6月20日(月)午後1時30分～3時 ■費用 2,500円

■対象 各20人 ■講師 ①②④前田典子氏③⑤佃隆子氏 ■持ち物 作品持ち帰り用袋・筆記用具 ■申し込み ①5月22日(日)②5月29日(日)③6月8日(水)④6月12日(日)⑤6月13日(月)までに講座名・住所・氏名・電話番号を電話・ファクスまたはEメールで上記へ

芦屋病院公開講座

問い合わせ 公民館 ☎35-0700

■日時 6月4日(土)午後2時～3時30分
■会場 市民センター401室 ■内容 飲みにくいと感じたら ■講師 今井教仁氏(言語聴覚士)・澤田かおる氏(管理栄養士)・加隈愛子氏(管理栄養士) ■受講料 200円 ■申し込み 直接会場へ



左から加隈愛子氏・澤田かおる氏・今井教仁氏

芦屋病院

6月に体組成分析装置が導入されます！

市立芦屋病院では入院患者さんの栄養管理を行っています。入院時に病棟看護師が栄養スクリーニングを行い、管理栄養士が定期的に栄養評価(栄養ケアプラン)の提案を医師・看護師に行っています。

また、栄養サポートチームでは、医師・看護師・薬剤師・言語聴覚士・管理栄養士・山内歯科口腔外科が協働して患者さんの栄養状態を評価し、栄養プランを主治医へ提案しています。

さて、従来の栄養評価は、第1に身長・体重から算出されるBMIの改善、第2に実際の栄養投与量(点滴や経管栄養・食事)と推定必要栄養量のバランス、第3に血中たんぱく濃度の改善が主なものでした。

そしてこのたび、第4の栄養評価として、6月に体組成分析装置が導入されます。本装置の導入で、体液や骨格筋量、皮下脂肪、内臓脂肪などの評価が可能とな

ります。本装置は、生体に微弱な交流電流を流し、身体構成成分を推定する方法です。体を傷つけることなく、簡便で精度の高い身体組成測定法として、さまざまな分野で活用が期待できます。

また近年、高齢期の脆弱性を表す概念としてフレイル(様々なストレス要因にさらされた時、要介護状態などのリスクが高まった状態)が注目されています。フレイルの中心的な病態であるサルコペニア(加齢だけではなく全身性の骨格筋量減少と筋機能が低下した状態)が進行すると、転びやすい・活動量低下・入院と

いったリスクが高くなるので、生活の質を維持するためにも筋量や筋力の維持は重要です。本装置で測定した骨格筋量はサルコペニアの診断には欠かせません。測定は、医師の指示に基づき実施されるものと人間ドック受診時にオプションとして実施されるものの2パターンがあ

ります。とても簡単で、素足になり装置に付属しているグリップを握ります。また金属の装飾品(腕時計指輪など)を外していただく必要があります。ただし、ペースメーカーを装着されているかたや、おひとりでの立位を保つことが困難なかたは妊娠している・妊娠の可能性があるかたは測定ができません。



芦屋病院 栄養管理室
澤田かおる・加隈愛子

問い合わせ 芦屋病院栄養管理室 ☎31-2156

大正2年(1913)

詩人・富田碎花と芦屋

—富田碎花旧居がリニューアルオープン—

富田碎花(1890～1984)は、岩手県盛岡市生まれの、大正・昭和の詩壇に大きな足跡を残した詩人です。本名は戒治郎(かいじろう)で、明治41年(1908)には与謝野鉄幹(あきこ)の『明星』に短歌を発表しています。『碎花』で『明星』に短歌を発表しています。大正4年(1915)には、最初の詩集『末日頌』(まつしゅう)を出版しました。民主主義的詩人の一派で、民衆の生活や心を日常的な口語で表現する民衆詩派の詩人として著名です。大正8・9年(1919・20)にはウォルト・ホイットマンの詩集『草の葉』(くさのは)・大正9年(1920)には『エドワード・カーペンターの詩集『民主主義の方へ』』を翻訳し、欧米の民主主義的思想を大正デモクラシー期の日本に紹介しました。戦後も詩作のために全国各地を旅し、『兵庫讃歌』(昭和46年(1971)などの詩集を刊行するとともに、芦屋市立宮川小学校・岩園小学校・精道中学校の校歌を含む50余編にのぼる校歌や市町歌を作詞するなど、数多くの業績から「兵庫県文化の父」とも称されています。

芦屋と碎花の間わりは、碎花が神奈川県小田原で肺を患い、当時の武庫郡精道村浜芦屋の知人宅に転地療養した大正2年(1913)に始まります。大正9年(1920)からは現在の茶屋之町・公光町・宮川町と移り住みました。なお、この宮川町の家は、当時谷崎潤一郎が隠れ棲んでいた現在の富田碎花旧居ではなく、その隣の家でした。そして、谷崎が現在の神戸市東灘区へ転居後、昭和14年(1939)5月より、宮川町にある現在の富田碎花旧居の場

【富田碎花旧居】宮川町4番12号
開館日：日曜・水曜(ただし、8月13日～19日・12月25日～1月4日は休館)
開館時間：午前10時～午後4時(入館は午後3時まで) 入館料：無料



リニューアルオープンした富田碎花旧居

芦屋タイムトラベル 問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2115